

ガンビアソフトボール支援事業 報告書

世界女子ソフトボール選手権大会 理事・普及委員会委員

日本ソフトボール協会 副会長

宇津木 妙子

日本オリンピック委員会からの委託を受け、国際オリンピック委員会のスポーツ連携事業である「オリンピック・ソリダリティ」事業として、ガンビアでソフトボールを指導することを通じ、発展途上国のスポーツ導入・推進を後押しする「ガンビアソフトボール支援事業」を実施しました。

今回は白井沙織さん、舞木彩英さんにも協力頂き、2月4日から3月1日までの長期間、ソフトボールの普及振興、技術指導を行いました。

私が10年前に当地を訪れ、実施したクリニックに小学生として参加した子供が、今回指導者として講習会に参加したことに、大変感激したと同時に、ゆっくりではあるけれども、着実にガンビアにソフトボールが根付いているな、という事を実感しました。今回の指導の中で、ソフトボールの技術だけでなく、スポーツの素晴らしさ、礼儀の大切さ、グラウンドや用具をきれいに保つ事など、彼らが人間としてより成長できるものを残してくれることができれば良いな、と考えております。

26日間にわたる長期間の技術指導の中で、地域指導者と学校教師の2グループに対し、13回に及ぶ指導者講習会を実施し、参加者自身の技術向上もさることながら、指導方法、またソフトボールに臨む心構えを伝えてきました。日を追うごとにルールも動きも覚えていき、着実に技術が向上しているのが実感できました。このプログラムを終え、ガンビアの指導者たちが基礎からガンビア国民がソフトボールに導入できる礎を置いてくれたと自負しております。その為にはガンビアソフトボール協会が継続してソフトボールを実施していく必要があります。

また、協会として自立して活動が継続できるよう、学校体育から始まる地域との連携、試合を行うことの重要性、資金調達への自助努力など、協会運営についても指導してきました。

アフリカ諸国ではやはり用具が絶対的に足りていない、という状況があり、WBSCからも普及委員会でアフリカ支援プロジェクトを構築していますが、日本からも日本リーグのチーム等で廃棄できずにいる用具等を提供する、といった協力はできるのではないかと思いますので、輸送に係るスキームを政府組織等と相談しながら、今後の普及活動で実施できればと思います。

今後もソフトボールを通じたスポーツの素晴らしさを、「ソフトボール先進国」である日本から、機会がある毎に世界中に伝えていければと考えております。

